

## 府中市内小学校の現在の状況について

府中市小学校校長会 会長 佐藤純一

日ごろより、子供たちの健全育成にご尽力いただきますこと、厚くお礼申し上げます。

府中市内小学校の現在の状況について、新型コロナウイルス感染症予防の取り組みを中心にご報告します。前回、1学期終了までのご報告をさせていただきましたので、今回は2学期開始からのご報告を致します。

2学期は、例年、八ヶ岳セカンドスクール、特別支援学級の宿泊行事が行われますが、感染症予防のため、中止となりました。小学校2校の創立記念式典も中止となりました。

一方、運動会や学習発表会・学芸会は、学年で実施日を変えるなど3密を避ける工夫を行い、実施した学校が多くありました。

日常の授業では、府中市教育委員会から示された「府中市立学校 感染症予防の手引き」に従い、児童の「接触」「密集」「近距離での活動」「向かい合っでの発声」について、一定の距離を保ち、同じ方向を向くようにし、また回数や時間を絞るなど感染症予防を講じて指導しました。例としては

- ・児童が長時間、近距離で対面形式となる話し合い活動
- ・理科の実験、
- ・音楽の合唱、リコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏
- ・図画工作の、児童が近距離で活動する共同制作などの表現や鑑賞の活動
- ・家庭科の調理実習
- ・体育の児童同士が密集する運動や接触したりする運動

などがあげられます。

また、遠足や社会科見学などの校外学習の実施についても、場所や時間、実施方法等について十分配慮しました。さらに、目的地や見学施設の感染症対策などについて、児童や保護者に対して十分に説明するとともに、参加について、保護者の同意書を得るようにしました。

感染症拡大予防のための日々の取り組みとしては、次のことを1学期から継続して実施してきました。

- ・「3つの密」の徹底した回避。
- ・手洗い、消毒の励行指導。
- ・マスクの着用等、咳エチケット指導。
- ・家庭へ毎朝の検温、検温検査と健康状態について記録等、児童の健康管

理の依頼。

- ・家庭との連絡体制の整備。
- ・構内の消毒等、良好な衛生環境の保持

3学期が始まり、緊急事態宣言が再び発令され、学校の活動は2学期より厳しく制限されることとなりました。前述の活動は、緊急事態宣言が解除になるまで行わないこととなりました、さらに校外学習も延期または中止することとなりました。

こうした制限の多い厳しい状況ではありますが、児童は感染症予防について正しく理解し、適切な行動を心がけるとともに、学校での日々の学習や友達との交流に楽しみややりがいを見出して生活しています。教員も、感染症予防に努めるとともに、児童の心のケアのために観察やコミュニケーションづくりに取り組んでおります。2学期末には医療従事者へ感謝のメッセージを作成しお送りしました。

この間、皆様には、登下校中や地域での、児童の見守りをしていただきましたことと存じます。改めましてお礼申し上げます。

学校は、引き続き、児童の健康安全を図りながら、学力・体力の向上に取り組んで参ります。今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

## 中学校の現状について

中学校校長会 会長 神谷 出

令和2年3月に一斉休校が始まり、6月15日の本格的な学校再開にいたるまでかなりの長期間にわたり生徒は自宅での生活が中心となりました。このことにより、報道等では生徒のメンタル面などの問題が指摘されました。例えば、ストレスが溜まっているのではないか、家で何もすることがなくスマホやゲームばかりに夢中になっているのではないか、虐待、ネグレクトなどがあつた際にはどうするのか、などの心配です。しかし、市内の中学校では、休校期間中に深刻なネットトラブルや虐待等の問題は発生しておりません。

学校が再開した後は、入学式や校外学習、運動会などの学校行事、部活動の大会、各種イベント・コンクール等が軒並み中止となり、これまでの教育活動、学習環境が一変しました。日常生活では、毎日の検温やマスクの常時着用、3密の回避などの感染症予防対策を行うことが常態化しました。友達と一定の距離を保ちながらの学校生活です。給食時など、これまで向かい合つてにぎやかに食べていた日常が、全員が前を向いてしゃべることなく黙々と食事をする光景に変わりました。

3年生は、最後の思い出となる行事や大会などが失われたことに戸惑いやくやしさを感じている生徒も少なくありません。また、1年生は、入学式がなく中学生になったという実感を十分にもてないまま学校生活が始まりました。学校行事や委員会、部活動などで模範となる上級生とかかわり刺激を受ける機会がなくなり、先輩の姿を通して中学生としての在るべき姿をイメージすることができない環境があります。

このように、生徒たちにとっては、達成感、成就感を感じたり仲間との絆を深めより良い人間関係を構築したりする場面が激減したこと、協働して問題解決を図っていく力を醸成する取組や対話を通して自身の考えや思ったことを伝え合う活動を行いにくくなりました。特に、生徒自身が活躍できる舞台が圧倒的に少なくなったことは残念でした。

しかし、市内の多くの中学生は、このような状況を幸いながらもしっかりと受け止めているように感じます。落ち着いた学校生活を送り、可能な範囲で友達と交流を行い、良好な人間関係を構築しています。新型コロナウイルスの陽性者や医療従事者に対するいじめや差別などの問題も起こっていません。

生徒たちは、このコロナ禍の中で多くのことを学んでいるように思われます。感染予防は、自分の身を守るだけでなく他人も守る行為につながる

ということ、危機的状況では回りに対する配慮や思いやりが求められるということ、自分も社会を構成する一員であるとの自覚と責任感、など、この時期だからこそその学びを深めています。

今後も、学校は「ウィズコロナ」に沿った教育活動が求められています。

学校として生徒の健全育成を推進していくにあたっては、これまでの取組を継続するのではなく、新しい発想や視点に基づいた教育活動を進めていくことが必要であると強く感じています。

## 高校の現状について

市内都立高等学校 代表 古閑 伸幸

平素より大変お世話になっております。

また、日頃より市内都立学校（府中高 府中西高 府中東高 府中工高 府中けやきの森学園）の教育活動にご理解とご協力を賜りありがとうございます。

昨年を振り返って見ますと、新型コロナウイルス感染症対策で未だかつて経験のない長期にわたる臨時休業という異常事態の中でスタートとなりました。

臨時休業期間中は、ON-L I N Eシステム等の活用、レターパックによる学習課題の郵送、電話による質問受付・相談対応など、各家庭に向けてきめの細かいハイブリッド形式による学習支援を実施してきました。

昨年度末から続く新型コロナウイルス感染症対策で私たち教職員が決して忘れないのは、お忙しい中、長期に渡ってお子さんを見守り、励まし続けてくださった保護者、ご家族の皆様の支援があったことです。今日、お子さんが元気に通学できているのも保護者をはじめご家族の皆様のお陰です。本当にありがたく思っております。

現在、学校行事の延期や中止による教育活動の変更、生徒及び教職員の健康管理や新型コロナウイルス感染症予防対策を講じた授業の実施をしておりますが、今後も学校の「新しい日常」に対応した教育活動を実施して参ります。

2学期以降、都立学校では多くの行事が中止、又は延期を余儀なくされました。

本校でも、体育祭の中止、文化祭も中止となりましたが、生徒の主体的な活動を継続するためにこれに代わる行事として、生徒が制作した映像作品をお互いに鑑賞し合う、校内短編映画上映会（緑陵上映会）を開催しました。各HRを参加単位の基準とし、部活動や有志も加わり12月に2日間実施しました。お互いの作品を鑑賞し合い、各賞で健闘を称えるなど盛会でした。

球技大会は3密が最も心配される行為について、適切な対策を講じながら無事終えることが出来ました。

また、昭和51年より行っている都立府中けやきの森学園との交流教育は、今年は12月にON-L I N E形式での開催となりました。主に「サイコトーク」を通して親睦を深めました。両校生徒で「ハニカムステンドグラス」（府中けやきの森学園80個・本校44個）を制作し、作品を交

換して両校で展示しております。冬の日差しを受けて、何色もの美しい光が校内を彩っています。

一方、本校では修学旅行（北海道道南方面）9月下旬に実施予定でしたが、3月に延期し実施に向けて準備を進めてきました。宿泊先・担当業者と調整を重ねて参りましたが、生徒の健康・安全について、必要且つ十分な環境を整えることは難しく、やむを得ず中止としました。現在、それに代わる校外学習を実施時期を含めて検討中です。

コロナ禍において生徒の活動範囲も制約されることも多いと思いますが、こんなときこそ心静かに「自分と向き合う。」「相手に思いを馳せる。」など「心の旅」を楽しんでみるには絶好の機会です。アクティブに行動したり、実物に触れることだけが心の成長を促すではありません。

本校の図書室の利用促進に向けて、図書司書と連携してアナウンスをしています。図書室は自分が真に「自由」になれる学び舎です。

人は、自分の経験や友達との会話だけでは獲得できる知識・思考力・判断力は限定的です。読書を通して知識や心がゆっくり拡がり深まっていきます。そして、経験不足や、限られた地域・偏見から解放された自分に気付いた時、真に「自由な自分」に出会えると思います。

新型コロナウイルス感染症対応の毎日を前向きにとらえ、生徒諸君には、この時期に是非「心」を磨いてほしいと本校では考えています。

また、メールではなく、お世話になった人、大切な人に、今まで国語の授業などで培った知識や、育んだ心を生かして手紙を認めてみることも生徒に勧めています。このような時期だからこそ、より深い絆が生まれるのではないかと思います。

去年は、SNSなどによる誹謗中傷から友達を傷付けたり、安易に個人情報公開してしまう問題行動が幾つか発生しました。

先に述べた「学び」を通して、「相手に思いを馳せる。」「相手の立場になって考える。」豊かな心を育ててほしいと願っています。

また、この時期心配されるのが、自動車免許取得が間もない高校3年生による交通事故です。日頃警察署と連携して指導を継続していきたいと思っています。

さて、令和3年度より都立高等学校においても「通級による指導」が始まります。「通級による指導」とは、大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について障害に応じた特別の指導を特別な場所で受ける指導形態です。都内公立小・中学校にある特別支援教室では、発達障害のある児童・生徒のための「通級による指導」が行われています。学校教育法施行規則の改正により、高等学校及び中等教育学校後期課程においても

「通級による指導」ができるようになりました。

最後に、各校ではその分析と準備を進めているところです。最後に、これからも「学校の新しい日常の創出」を教職員が一丸となって取組んでいく所存です。生徒には引き続き、不要不急の外出は控え、自らが感染者とならないよう努めること、若者の責任ある行動が感染すると重症化しやすい高齢者、基礎疾患がある方、乳幼児の命を救うことになることを説いていきます。

地域の皆様には、府中市青少年問題協議会をはじめ、三水会、本校の学校運営連絡協議会を通して大変お世話になっております。ありがとうございます。

今年も府中市の中堅校として市内都立学校と連携しながら、市民の皆様の期待に応えられるよう精進を重ねて参りますので宜しく願いいたします。

## 府中市内の少年非行等の現状について

警視庁府中警察署 署長 下田 耕資

府中市内の少年非行等の現状について、ご説明をさせていただきます。検挙情報についてですが、府中警察署における昨年の非行少年の検挙件数は46件で、前年よりマイナス6件となっており、その中で一番多いのが万引き等の窃盗で15件となっています。非行少年の中で、触法少年と言って14歳に満たないで刑罰法令に触れる行為をした少年の検挙件数は11件で、内8件が小学生による万引きであり、少年による万引きがなかなか減少していないのが現状であります。

少年の場合、コンビニで菓子等の食料品を万引きするケースが多く、当署におきましても、子供達に対して「万引きは犯罪である」との認識を抱いてもらうよう、市内の各小学校と連携して積極的に万引き防止教室を開催し、ロールプレイを実施するなどして万引きについて子供達自身に考えてもらう方法を取り入れるなど、万引き防止に向けた対策を講じております。

次に補導件数ですが、昨年は253件で前年比でマイナス198件で大幅な減少となっています。行為種別では、深夜徘徊が215件で最も多く、次いでゲームセンターなど風俗営業等の時間外立入が17件となっています。補導件数減少の要因として挙げられるのが、新型コロナウイルス感染症の影響で、少年らにおいても外出を自粛していることが関係しているものと思われま

す。次に府中警察署から児童相談所への通告件数ですが、本年は152件で、昨年同期比で35件増えています。内訳については、虐待通告が136件、虐待以外の通告が16件になります。虐待通告の中で一番多いのが、子どもの面前での夫婦喧嘩をした等の心理的虐待の103件で、子どもの身体に直接的に暴行を加える身体的虐待が31件になります。

通告件数は増加傾向にありますが、これは地域住民の方が虐待事案に関心を示すようになり、警察への通報が増えたことが要因として挙げられます。

少年相談については、昨年は65件受理しており、前年よりマイナス17件となっています。相談内容にあつては、金品持ち出し等の家庭問題をはじめ虐待関係や学校職場関係など多岐に渡っております。

少年非行で懸念される事項の一つに特殊詐欺が挙げられます。近年、特殊詐欺に少年が加担して「受け子」や「出し子」として検挙されるケース

が後を絶ちません。少年が特殊詐欺に加担してしまう理由の一つとして「先輩などからの誘いを断ることができなかった」というものがあります。仮に、誘われたときに勇気を持って断ることができていたらなら、その少年には別の未来が待っていたはずです。「断る勇気」これは特殊詐欺に限ったものではありません。皆様も少年らと対話をする機会がございましたら「断る勇気」についてご教示いただければと思います。